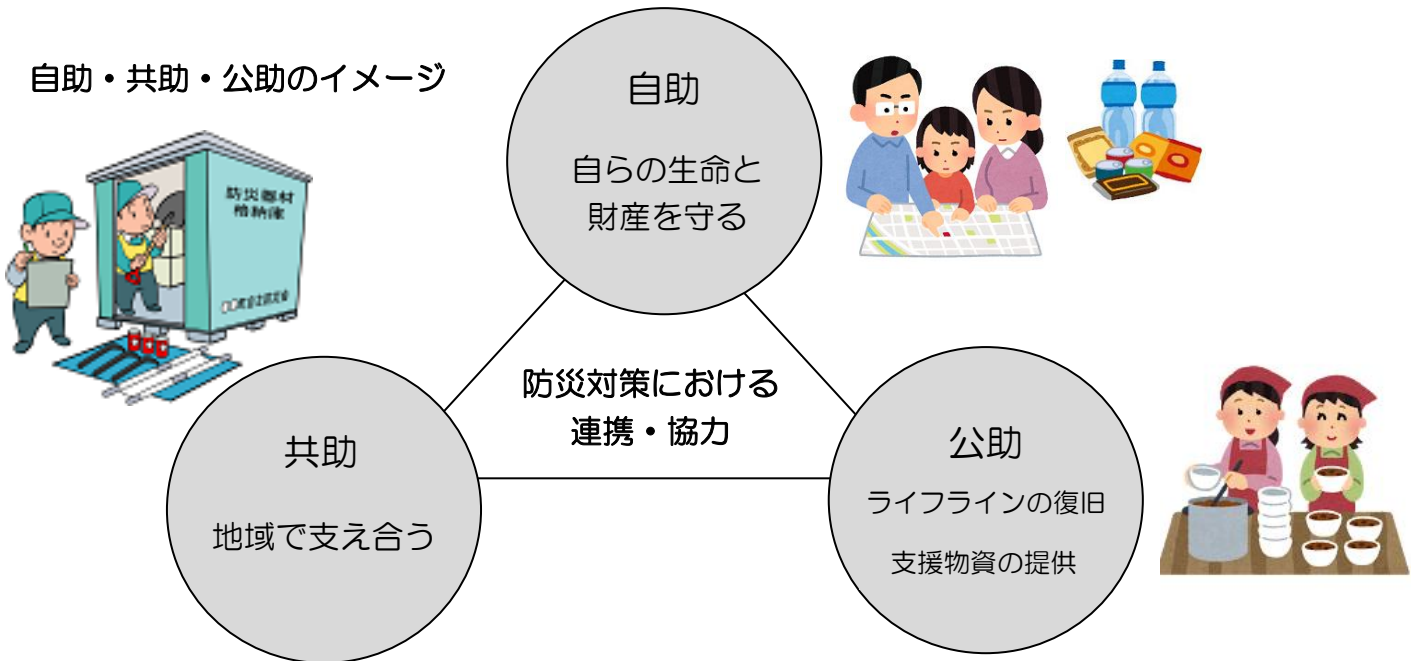


自治会で出来る避難行動要支援者への対応

地域住民で支え合い防災・減災活動を！

災害とは、地震や風水害など様々なものがあり、それぞれの対応方法や備えが必要です。
 また、災害などが起きた直後は、初動に時間がかかる「公助」よりも「自助」と「共助」が重要です。平常時から、近隣との顔の見える関係づくりで減災に繋がります。

自助・共助・公助のイメージ



◆災害時の支援は、日頃からの関係づくりが大切！

普段から取り組んでいないことは、緊急時にはできません。日頃から十分な対策を講じることが大切です。

- 平常時**
- **顔の見える関係づくり**…日頃からの声かけ、あいさつや見守り、訪問を実施。支え合いの輪に、要支援者自身から入っていただくように心がける。
 - **情報の整理・収集**…要支援者情報の整理や町内の危険ヶ所などの情報を収集。
 - **助け合いの体制を検討**…安否確認や支援方法、情報伝達方式などを話し合い、共有しておく。
 - **いざという時に備えて確認・訓練**…避難ルートの確認や訓練を実施。

- 災害時**
- **ご近所同士助け合って安全に避難**…災害情報伝達・安否確認・救出救護・避難誘導

我孫子で災害が起きたら！

地域住民の方をお願いしたい主な支援とは・・・。



まず第一に自分や家族の身の安全を確保してください。

◆情報伝達

…避難行動要支援者には、「自分の身に危険が差し迫った場合、それを感知する能力がない人」や「危険を知らせる情報を受け取ることができない人」等が含まれることから、地域を中心とした電話や訪問による直接的な伝達が効果的です。



(例) 避難行動要支援者名簿を活用し、速やかな情報伝達

◆安否確認

…災害発生直後は、市、消防、警察等による支援体制が整うまでには一定の時間を要します。
安否確認・避難誘導は自治会等が中心となり、支援団体の人たちの協力によって対応していただくことが必要となります。



◆避難支援

…自宅の半壊や避難準備情報の発令などにより、自宅に留まることができない場合に、ひとりや家族の支援のみでは避難が困難な方に対して、避難場所等安全な場所までの避難の支援をお願いします。



平常時から顔の見える関係づくりが、やはり大切！

先月、千葉県に上陸した台風15号は県内各地で大きな爪痕を残し、多くの方が被災されました。被災地では、隣近所と復旧に向けて手を取り合い、助け合い頑張っています。

これも日頃から、隣近所のお付き合いがあるからこそのこと。突然、交流のない隣近所と協力体制を築くのは難しいです。災害を想定し、日頃から顔の見える関係づくりを心掛け、声かけ、あいさつ、見守り、訪問などを行って、万が一に備えたいものです。

災害時の安否確認の方法を工夫するなど、自治会ごとに決め事をつくっておくのも良いですね。